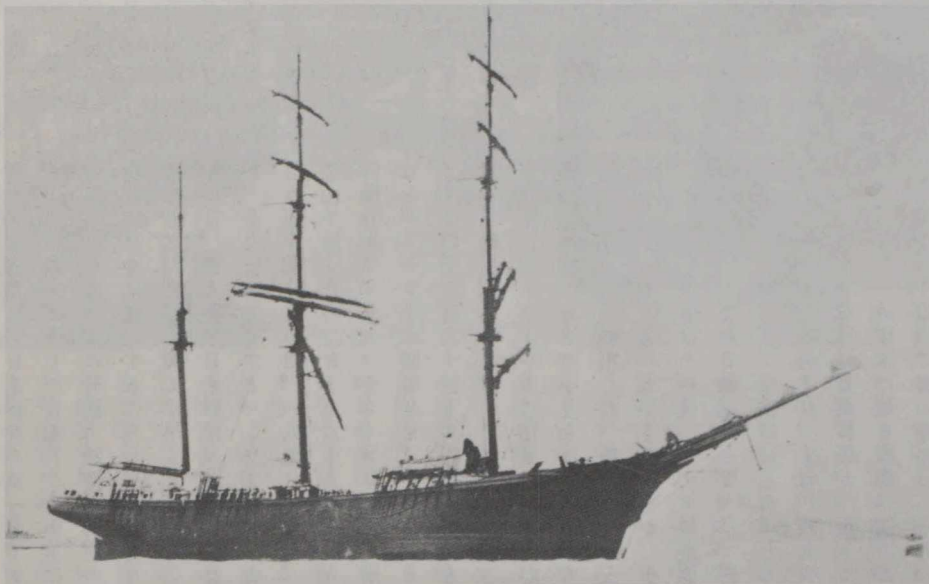


日加貿易・躍進の百年

現在は総額、年間53億ドルに



初めて日本を訪れたカナダ船「W.B.フリント号」

日本とカナダの貿易がいつから始まったか、はっきりしない。カナダの貿易統計に日本が初めて顔を出すのは一八七三（明治六）年であるが、その時はまだ中国と一緒に扱われていた。また日本の統計でもカナダは米国と一緒にされていて、対加貿易の具体的な額はつかめない。

ようやく一八七六年になって、カナダ側の記録で対日輸入額が六十一万九千七百七十七ドルにのぼり、そのうち緑茶が五十九万七千七百七十七ドルを占めたことがわかる。カナダの対日輸出について

は、一八七八年、一万三千余ドルの工業製品が出荷されたことが記録されている。一八八六年におけるカナダの対日輸入額は八十七万六千二百八十三ドルで、そのうち緑茶は八十五万七千七百四十四ドル、対日輸出は木材と船のマストを中心に三万一千七百八十ドルだから、貿易パターンはほとんど変わっていない。

カナダ国旗を掲げて日本を訪れた最初の船は、三本マストの帆船W・B・フリント号。カナダ太平洋鉄道（CPR）が用船したフリント号（八百トン）は、一八八六年六月十九日、百万ポンド以上の茶を積んで横浜港を出発、大陸横断鉄道列車が初めてカナダを横断してからちょうど三週間目の七月二十七日、ブリティッシュ・コロンビア州ポート・ムーディに到着した。この航路がきわめて重要であることがわかり、CPRはまもなくアビシーナ号、バタビア号、パシシア号の三隻の貨物輸送船を定期便として周航させた。

アビシーナ号がバンクーバー港に入港したのは、バンクーバーが大火で焼け落ちてから一年目だった。バンクーバーはすでに再建され、ポート・ムーディに代わって大陸横断鉄道の太平洋側発着点として栄えていた。アビシーナ号が東洋から絹を積んで到着するという日になると、市長と市議会は歓迎式典を準備し、楽団をしたがえて埠頭にくり出す騒ぎだった。しかし、アビシーナ号は、霧と荒波のためイングリッシュ湾に避難して、夜中になってもバンクーバー港に現れなかった。パーティーはやむなく夜中に散会した。積み荷は翌日、早速船からおろされて、鉄

道でモントリオール、ニューヨーク、ボストン、シカゴへ輸送された。その後、バンクーバーを経由して栄えた絹貿易の歴史的な第一船であった。

日本は、一九〇〇年には、その外貨の四割を絹の輸出から得ていた。日本の絹輸出が最高潮に達したのは一九三四年で、北米市場を中心に六千七百万ポンドを輸出している。絹は、一九二七年にカナダの対日輸入額の六十二パーセントを占め、バンクーバー港およびカナダの大陸横断鉄道の発展に大きく寄与した。

カナダ太平洋鉄道は、以後四十年以上にわたって、急行列車で絹および絹製品をバンクーバーからニューヨークの工場へ輸送した。大陸横断の客用列車まで、絹輸送特別急行に先を譲るほどで、ジョージ殿下（のちの国王ジョージ六世）も、そういう目にあつた一人である。CPRが絹の輸送を急いだのは、それが一回分で平均三百万ドルもしたため、多額の保険金を払わなければならなかったからで

対日輸入		1891年	対日輸出	
緑茶	\$ 1,051,449		林産品	\$ 10,253
米	122,924		石炭	4,664
絹、絹製品	22,723		合計	\$ 14,917
紅茶	19,842			
陶器	8,850			
小間物	4,878			
紙製品	2,180			
果物、みかん	1,139			
合計	\$ 1,233,985			